令和3年度　山梨学院学生チャレンジ制度　認定企画一覧

認定No.	代表者	団体名等	人数（名）	企画タイトル	企画目的・概要
1	経営学科　3年生 ソ　ﾀｸﾖｳ 蘇　沢曜	中国留学生学友会	32	Smile！留学生　in YGU	（目的）①留学生の大学生活の充実、②①を後輩留学生に伝える、③都会とは異なる山梨県特有の魅力を、留学生の視点で世界に発信する。 （概要）日本、就中（なかんずく）、山梨県で大学生活を送ることの楽しさを発信し、留学生一人ひとりに、青春期の大切な思い出を、日本及び山梨県で刻んでもらう。またその記録を冊子にし、日本及び山梨に魅力を感じて進学を検討している高校生、また入学して間もない1年生等にもこれを配布し、日本及び山梨との縁を深めてもらう。 （活動目標）最終的にはこうした活動記録を冊子とし、印刷をして配布する。また、SNSを通じて日本、山梨及び本学の魅力を発信する。
2	経営学科　3年生 ｻﾄｳ ﾂｸﾞﾐ 佐藤　つぐみ	FIND　OWN　SPACE	8	学生の交流の機会を作ろう！	「友人づくりのための交流の機会」の提供を目的とする。コロナ禍の影響もあり、現在、学生間の交流、またイベント実施等の機会が大幅に縮減した。そのため、友人がいない（作れない）という悩みを抱える学生が多い。なかには、大学で学ぶ意義さえ見失っている場合がある。そこで、友人づくりのための交流の機会を提供し、そうした悩みの解消を図ることを目的とする。 　具体的には、山梨県内の観光地等を調査し、観光地図を作成する。これを電子書籍化し、SNSを中心としたインターネットで共有、拡散する。また、冊子化も行い、希望者に無償配布する（掲載した店舗等で配布）。さらに、その地図を基に、県内学生のコミュニティをつくり、同地図に掲載した観光地を巡るイベント等を開催する。これにより、学部、国籍、大学等の枠を超えて友人同士が活発に交流できる機会をもつ。また、こうした（感染阻止に配慮したうえでの）学生間交流、観光は、地域経済の活性化にも貢献できるものとなると期待する。
3	経営学科　3年生 ﾅｶﾑﾗ ﾈｵ 中村　音旺	個人	1	教育支援システムの補助及び 便利性向上システムの制作・運用	新型コロナウィルスの感染拡大により、学習形態が大きく変容した。すなわち、教育支援システム「manaba」を用いたミニッツペーパー、レポート提出、また小テスト実施等、インターネット上のシステムを用いた形態での学習が増加した。 　このように、昨年１年間を通じて、全ての課題がネット上で提示され、課題提出等もネットを通じて行うことが求められたため、「manaba」等に表示される情報が大幅に増加した。そのため、「課題の内容、また課題提出時期等の整理が困難となっている」という趣旨の相談が、学生から教員方に多く寄せられているという。 　そこで、未提出となっている課題、及びその提出期限を取得し、そうした有益情報を、多数の学生が利用している「LINE」を用いて、学生に通知するシステムを開発する。これを学生に公開して、学生の利用を促す。
4	経営学科　3年生 ｳｼﾔﾏ ﾐﾕｳ 牛山　美結	経営学科 東ゼミナール	20	「見て、食べて、触って、感じる」 リアルだからこそ楽しめる経験の提供	本企画は、コロナ禍での苦渋を背景に生まれた。昨年は、オンラインでの活動が多く、リアルでの経験がほとんどなかった。そのため、リアルで触れたり遊んだりすることの大切さを身にしみて実感した。 　学習の一環として、お子さんをお連れしているご家族等を対象に、見て、食べて、触って、感じる五感に注目して、「リアルで触れたり遊んだりすることのこできる場」を提供するイベントを開催したいと考えている。 　東ゼミナールでは、毎年度学生が自主的に、「やりたいこと」、「やるべきこと」を検討して企画立案、実践することを通じて、実践的な経営学を身につけることを活動のメインテーマとしている。今年度は、「リアルだからこそ楽しめる」をキーワードに、イベントの企画立案と実施を通じ、人、モノ、金の一連の流れをリアルに経験し、学びの一環とすること目的としている。
5	管理栄養学科　3年生 ヒロセ　ラン 廣瀬　蘭	ふーかる	5	”食”の力で山梨県を元気に！	山梨県産の豊かな食材を利用した商品開発を行う。これによって山梨県の地域活性化を図る。具体的な商品は、クラブ活動をしている学生向けの軽食である。同学生向けに、①クラブ活動前の腹ごしらえ、また②帰宅前の夕食として、山梨県産の豊かな食材を利用した軽食のレシピ（リーフレット）を提供する。同軽食メニューは、当団体所属の健康栄養学部の学生が、栄養バランスを考慮して考案する。その際、近年、ヴィーガン等、食意識にも多様な変化の見られることから、県産食材を活用して、その点への配慮も行う。これらにより、山梨県産の豊かな食材を学生に知っていただく。また同時に、クラブ学生と一体となり、その栄養及び健康面での支援を行い、エールを送ることで、クラブ生、またクラブの一層の活躍と成果の向上を目指す。また、県産食材を利用した軽食メニューの開発・リーフレット提供により、食を通じた本県の地域活性化につなげることも期待する。
6	スポーツ科学科　3年生 ﾆｼｼﾞｮｳ　ﾘﾘｺ 西条　莉理子	ISS広報部	6	YGUスポーツブランドを世界へ！	企画者は現在、ISS広報部に所属し、スポーツ科学部の広報に取り組んでいる。具体的には、在学生の目線で、学生生活の様子や競技スポーツに取り組む学生の様子を取材し、SNS等を通じて内外に発信している。これにより、ISSのブランドを高めることや、同学部の学生に、同学部への所属意識を高めることに貢献できるという手応えを感じている。 　他方で、広く本学のスポーツ全体から見ると、未だ広報対象が限定的である印象をもつ。他学部にも、競技スポーツにおいて世界的に優秀な成績をもつ学生は多数存在するが、そうした学生への取材は、現在、実現できていない。 　また、現在の学内のスポーツ広報媒体を確認すると、いわゆる競技スポーツに焦点を当てたものが多い。つまり、「生涯スポーツ」の観点からとらえた情報は限定的であるといえる。本学のスポーツブランドの価値の向上のためには、広報対象をこうした分野にも広げていくことが必要ではないかと考えた。 　そこで、本学のYGUスポーツブランドの総合的な向上を目的として、全学向けのスポーツ広報媒体を製作・発行することを企画した（年間3回発行を予定する）。 　具体的には、学生間のつながりを有効活用し、学内の多様なスポーツ活動について広く取材を行う。また、SNSを通じた情報発信によって、在学生全体に、本学のYGUスポーツに対する認知・関心を高めることを目的とする。
7	経営学科　4年生 ｼﾐｽﾞ　ｴｲｽｹ 清水　詠介	経営学科 東ゼミナール	4	市川三郷町の地場産業「和紙」を使った 園芸品の開発及び販売への挑戦	企画者は、昨年度から、市川三郷町の地場産業である「和紙」を使った園芸品の開発及び販売を目指してプロジェクトを行っている。 　和紙を使うことで、従来のプラスチックを素材としたプランターや育苗ポットとは違った、環境に配慮した園芸品を生産することができる。また、山梨県の特産物を活かした製品を開発することで地元産業への貢献につながり、新たな販路拡大に繋がると考えている。 　昨年度の活動で和紙を生産する方々から協力を頂けることとなった。そこで、和紙を提供していただきながら商品の具体的な機能や特徴を構築し、また製品の付属品を調達するための調達ルートの選定、実験や試験販売によって出てきた問題点の改善を通したPDCAサイクルの実践、販売場所やターゲット層を絞り込んだマーケティングの実践、資金や費用の発生などによる金銭の管理などを具体的な活動とする。 　最終的には製品として試験販売を行い、販売ルートや納品などを取り決めた上で正式に県内で販売を行う予定である。また、オンラインでの商品の販売も検討しており、販売を行うECサイトの選定や輸送方法・梱包方法の検討、オンラインサイトの運営なども検討しており、全国的に取引が行えることを目標としている。